

す て き な 本 た ち

～子どもたちとのふれあいの中から～

第 1 回

店名の由来は 「ナルニア国ものがたり」

教文館

子どもの本のみせ ナルニア国

土屋 智子

「ナルニア国ものがたり」は、イギリスの C・S・ルイスが書いた全七巻のファンタジーシリーズです。店の名はここからとっています。一連のお話の舞台である「ナルニア国」は、自然の美しい、気候のよい国で、ものの言う動物たちや人間、神話・伝説の登場人物たちがなかく暮らす別世界です。当店が子どもたちにとって、そうした心安らぐ場所であるように、本とのよい出会いが子どもたちに幸せをもたらすように、という願いが込められての命名です。

さて、子どもたちはこの物語とどんな風に出会っているでしょうか。

第一巻の『ライオンと魔女』が映画化され二〇〇五年三月に公開される、ということがありました。新聞・テレビには映画の宣伝があふれましたが、当店らしい『ライオンと魔女』と子どもとの出会いとして、私たちは朗読会を企画しました。新書サイズの岩波少年文庫版で200頁以上ある本の、全文朗読です。朗読会は三週連続で行い、応募した約50名の親子が、毎回2～3時間、計8時間近い朗読を聞き通してくれました。

子どもたちが飽きると心配でしたが、一人の朗読者が声色なども使わず、たんとと読むのをじっと聴くだけのこの時間を、おおいの子どもたちが心から楽しんでくれたの

です。それどころか、はじめに想定した高学年以上より小さい子（二年）たちもいたのです。「お話を聞き慣れているのでだいじょうぶです」という強い要望によるものでした。また、このころ、何人かのお客様から、「一年生だけど、親子ともども楽しんでます」という声も聞きました。

成否をあやぶんだイベントでしたが、この成果に私たちは改めて、力のある本は強いことを知りました。初版（一九六六）から40年近く読み継がれているのはだてじゃない、ということでしょうか。この作品が一番と語る作家が多いのもうなずけます。

冒険の世界に心身とも没入するという、こうした読書こそ子ども時代に体験してもらいたい、そんな願いを心に秘めつつ、今日もカウンターに立っています。



『ナルニア国ものがたり
ライオンと魔女』
C.S.ルイス作／瀬田貞二訳
岩波少年文庫／2000年

つちや ともこ 教文館 子どもの本のみせ ナルニア国店長。公立図書館員、日本図書館協会・児童基
本蔵書目録作成委員会（非常勤）などを経て現職。